

「(仮称) 半田市こども・若者計画」
策定に係るアンケート調査

調査結果報告書

概要版

令和8年3月

半田市

目次

調査概要	1
1 調査の目的	1
2 調査対象及び調査方法	1
3 回収結果	1
4 報告書の見方	1
調査結果	2
1 居場所について	2
(1) ほっとできる居場所	2
(2) 楽しいと感じること	3
2 悩みや相談について	6
(1) 困っていることや悩みの有無	6
(2) 困っていることや悩みがあるときの相談相手	7
(3) 誰にも相談できない、相談したくない理由	8
3 こどもの権利について	10
(1) 参加の権利の保障状況	10
(2) こども・若者政策に関する思い	13
4 自己肯定感等について	14
(1) 自分の気持ちや思いの状況	14
5 若者の将来について	17
(1) 結婚の意向	17
(2) ライフプランに必要なこと	18
6 半田市への愛着と生活度の満足度	19
(1) 半田市への愛着	19
(2) 半田市への定住意向	19
(3) 最近の生活の満足度	20

調査概要

1 調査の目的

本調査は、すべての子ども・若者が身体的・精神的・社会的に幸せな生活をおくることを目指す「(仮称)半田市子ども・若者計画」を策定するための基礎資料として、半田市の子ども・若者の現状を把握するために実施しました。

2 調査対象及び調査方法

調査対象者	① 小学5年生	② 中学2年生	③ ①または②の保護者	④ 若者 (高校生～34歳)
調査票配布数	927	913	1,840	1,500
調査期間	令和7年11月5日～令和7年11月26日			
調査方法	郵送配布、郵送及びWEB回答			

3 回収結果

調査対象者	① 小学5年生		② 中学2年生		③ ①または②の保護者		④ 若者 (高校生～34歳)	
	郵送	WEB	郵送	WEB	郵送	WEB	郵送	WEB
回収数 (件)	169	288	98	269	266	608	98	364
	457		367		874		462	
回収率 (%)	18.2	31.1	10.7	29.5	14.5	33.0	6.5	24.3
	49.3		40.2		47.5		30.8	

4 報告書の見方

- ・ グラフの「n」は、集計対象者総数(あるいは、回答者限定設問の限定条件に該当する人)を示しています。
- ・ グラフの「%」は、小数第2位を四捨五入しているため、単数回答の設問であっても合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合は、「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。

調査結果

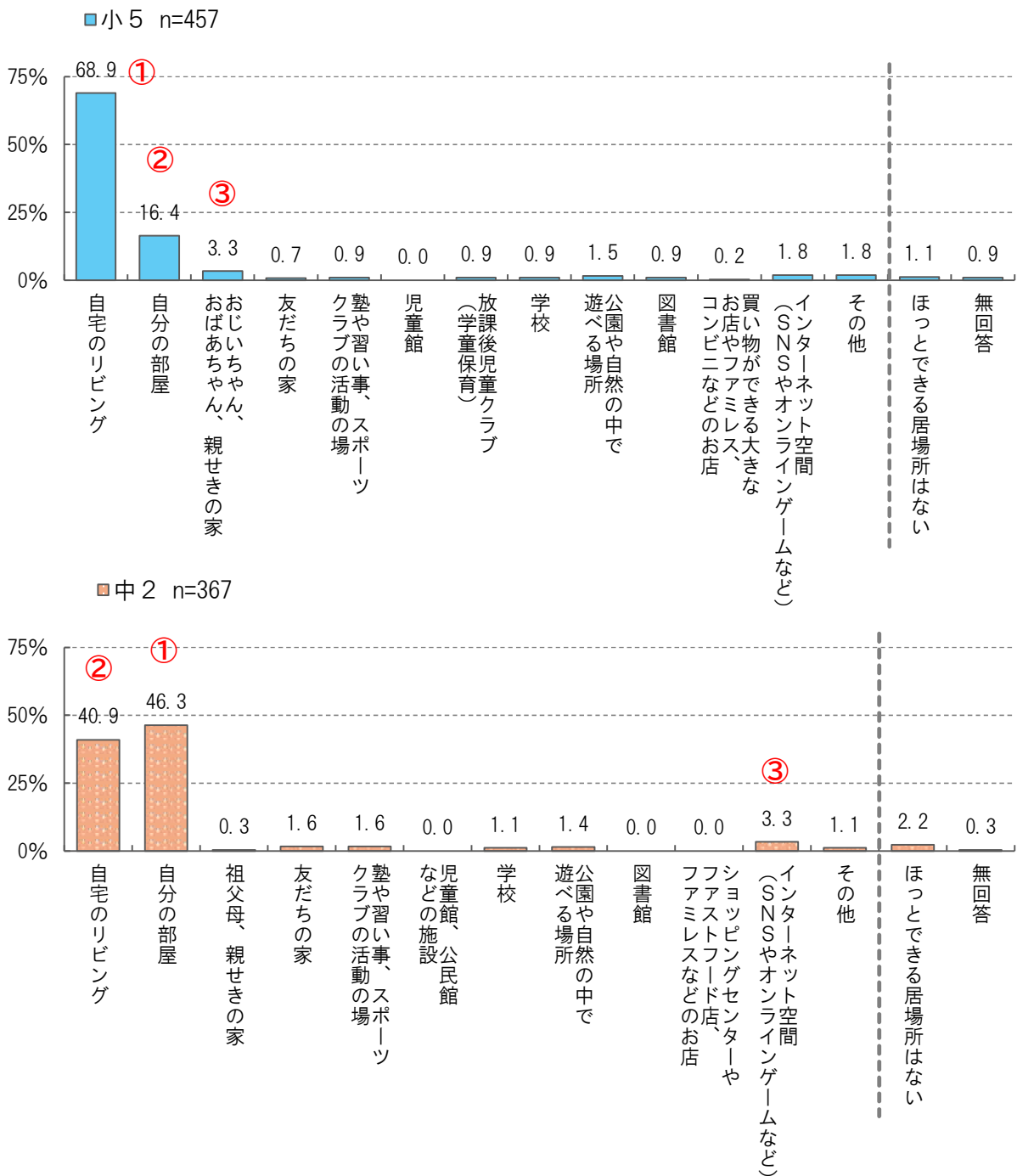
1 居場所について

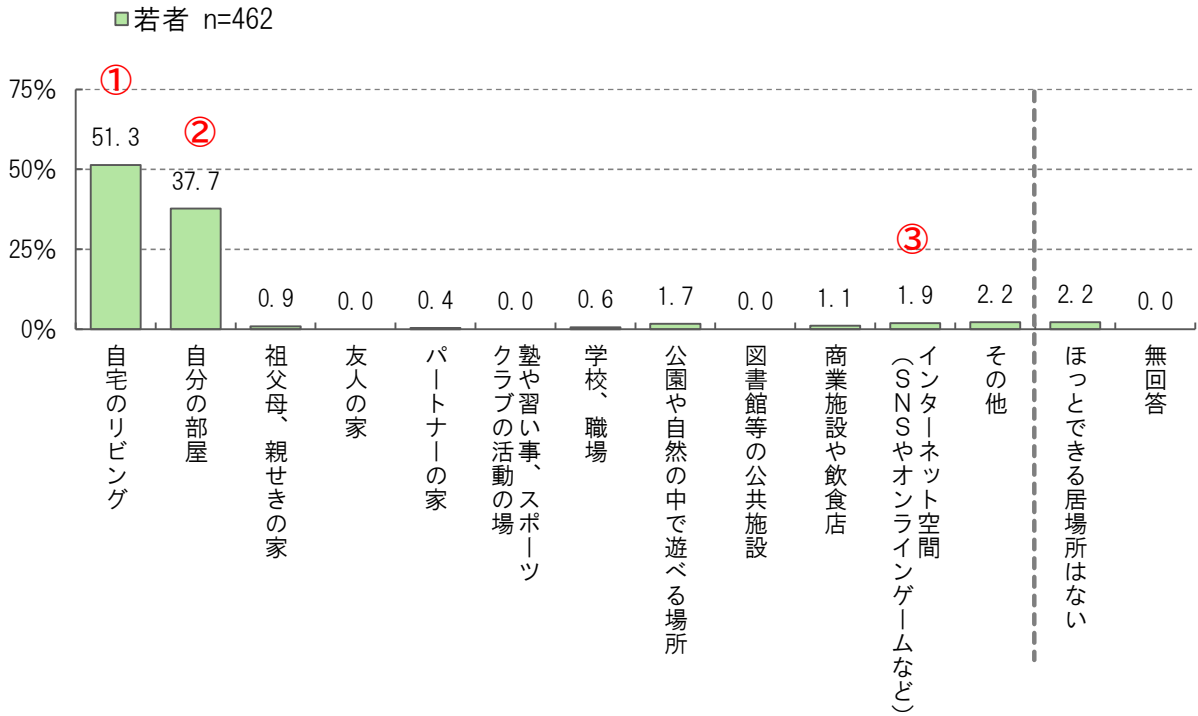
(1) ほっとできる居場所

[小5・中2：問10、若者：問10] <単数回答>

ほっとできる居場所は、小学5年生・若者では「自宅のリビング」、中学2年生では「自分の部屋」が最も高くなっています。

一方、「ほっとできる居場所はない」はいずれも2%前後ですが、一定数いる状況です。



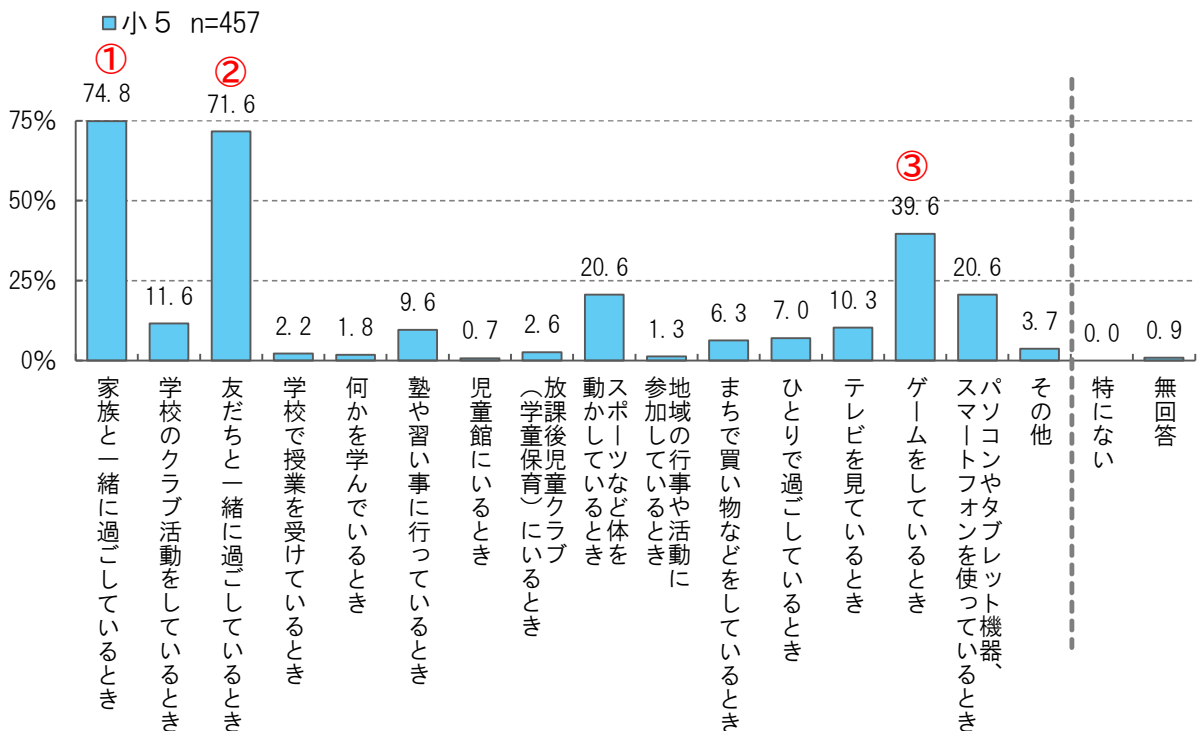


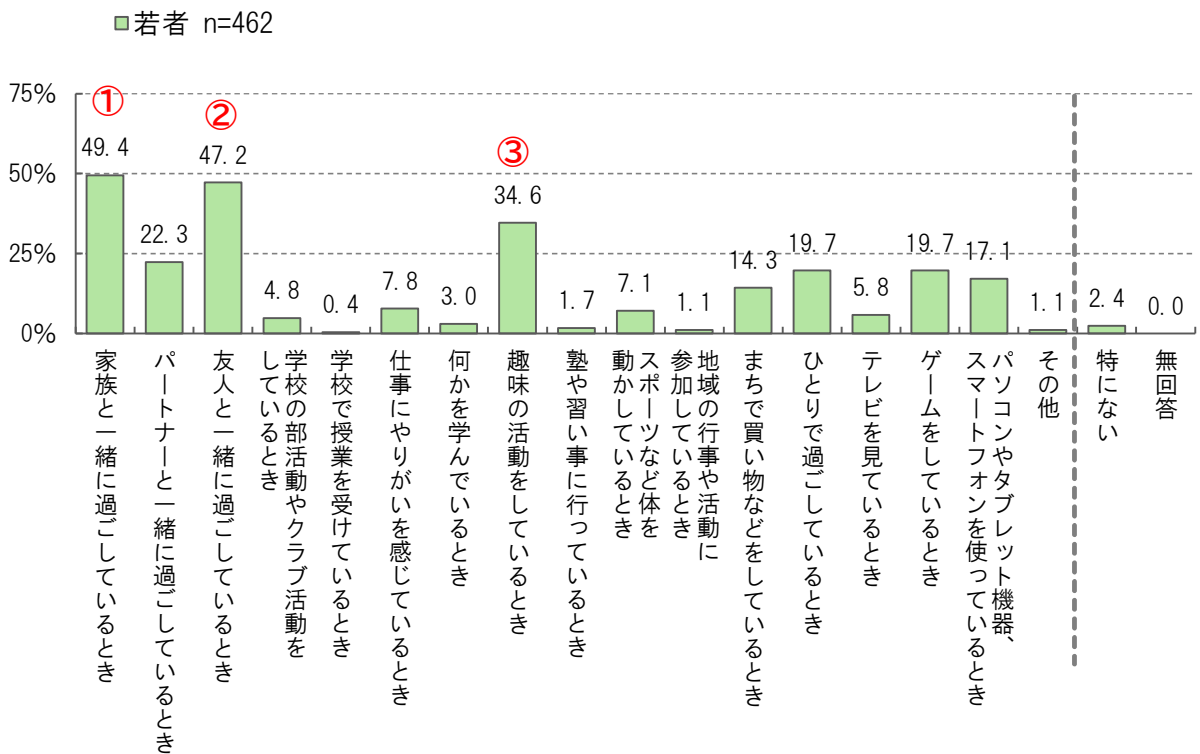
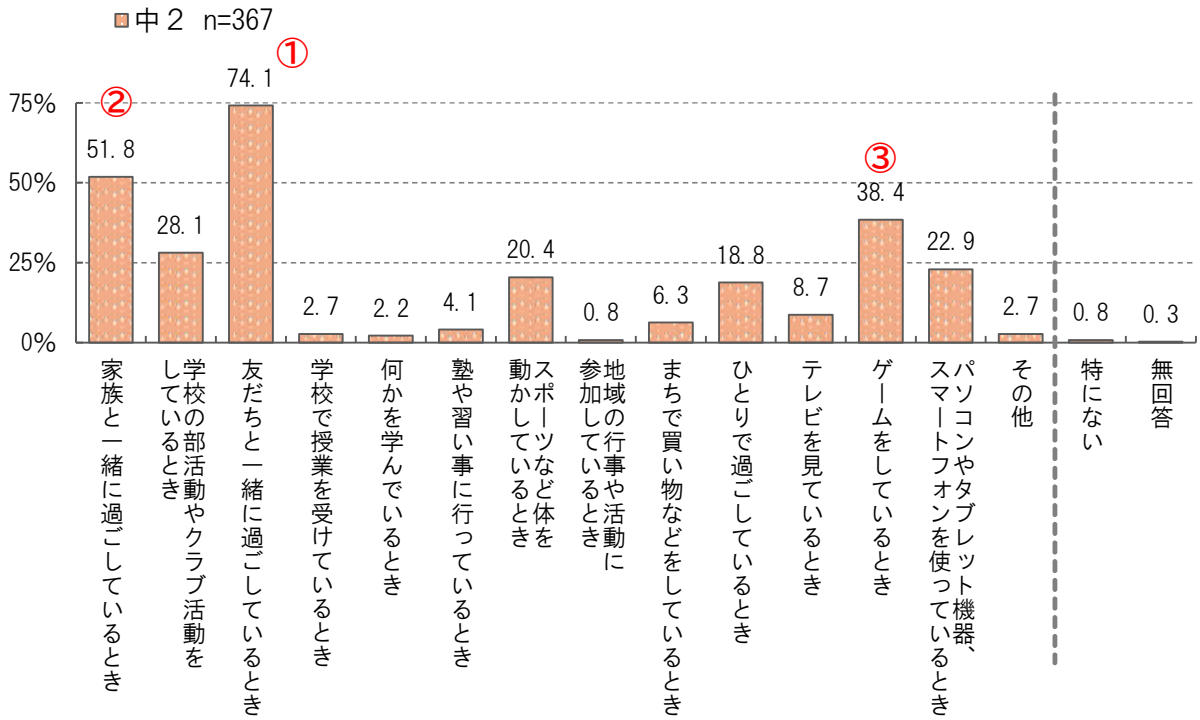
(2) 楽しいと感じること

[小5・中2：問11、若者：問11] <複数回答>

ふだんの生活の中で楽しさを感じる時は、小学5年生・中学2年生・若者ともに「家族と一緒に過ごしているとき」や「友人と一緒に過ごしているとき」が上位となっています。

また、小学5年生・中学2年生では「ゲームをしているとき」が4割弱と高く、若者では「趣味の活動をしているとき」が3割強となっています。





【考 察】

小5・中2・若者のほとんどが、ほっとできる居場所があると回答しています。その場所は、「自宅のリビング」や「自分の部屋」が大半を占め、それ以外の場所は5%に満たない状況です。

また、「ほっとできる居場所はない」は少数であるものの、一定数いる状況です。

ふだんの生活の中で楽しさを感じる時は、小5・中2・若者ともに「家族と一緒に過ごしているとき」や「友人と一緒に過ごしているとき」をあげています。

また、小5・中2では「ゲームをしているとき」、若者では「趣味の活動をしているとき」と回答した割合も高くなっています。

近年、家庭、学校（職場）以外の「サードプレイス（第3の居場所）」の重要性が高まっています。家庭（第1）や学校・職場（第2）だけに依存すると、そこでつまずいた時に逃げ場がなくなるからです。

こども・若者が真に求めている居場所の把握が重要となります。

2 悩みや相談について

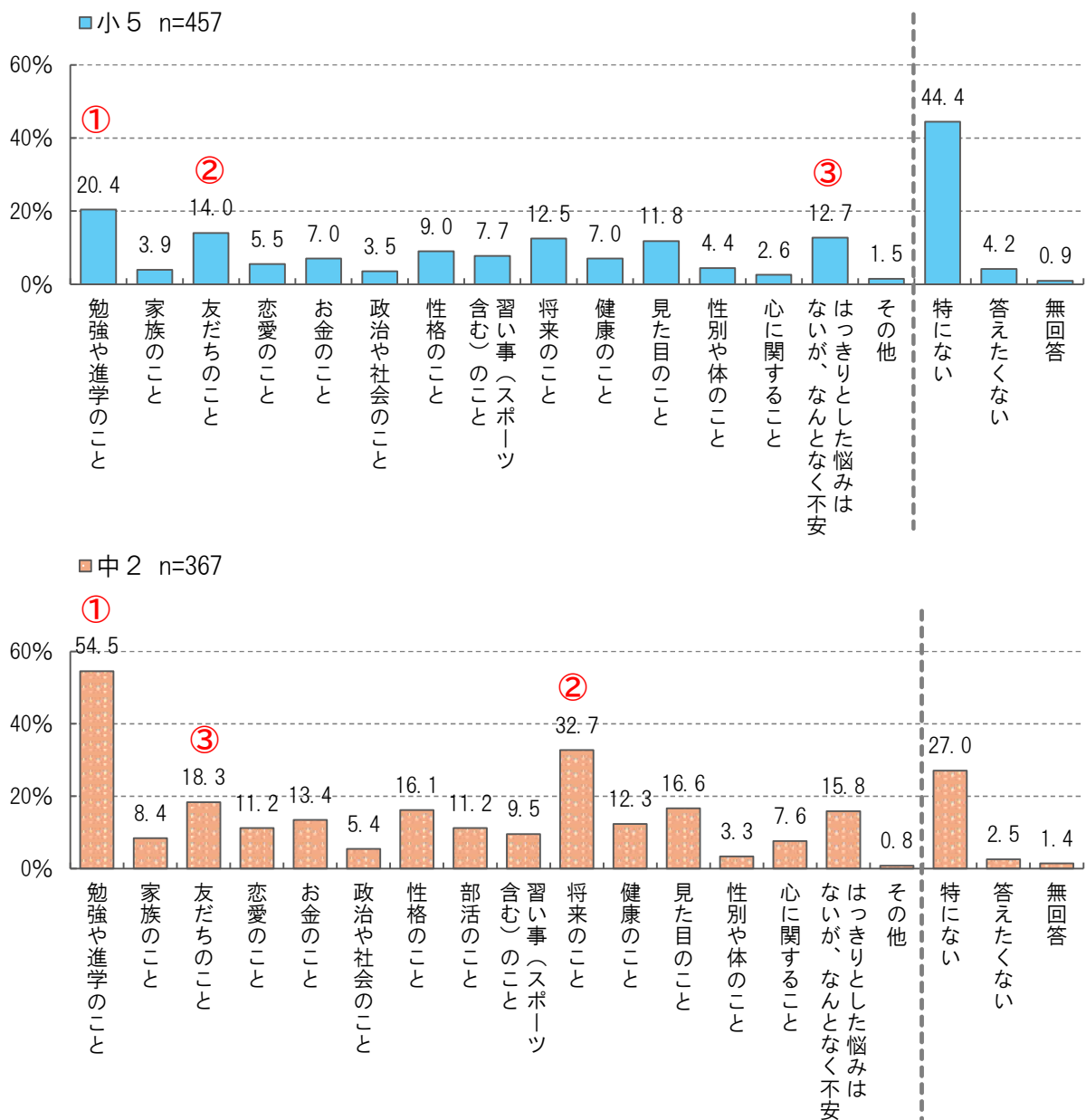
(1) 困っていることや悩みの有無

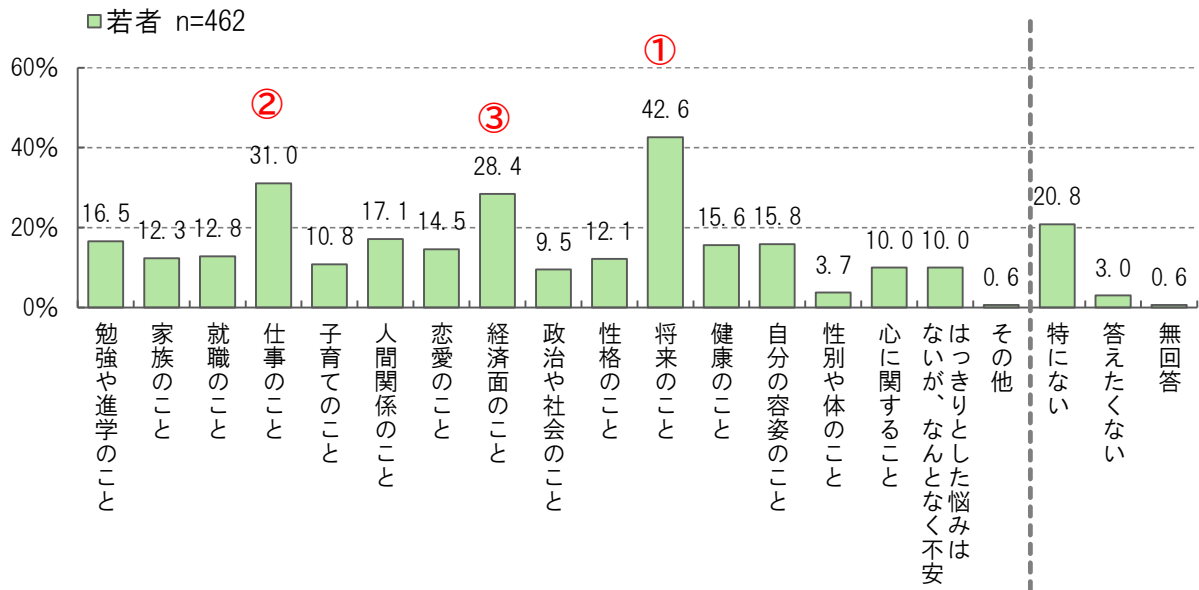
[小5・中2：問14、若者：問13]〈複数回答〉

困っていることや悩んでいることは、小学5年生、中学2年生では「勉強や進学のこと」、若者では「将来のこと」をあげている割合が最も高くなっています。

中でも、中学2年生は「勉強や進学のこと」に5割以上が困っていたり悩んでいると回答しています。

また、「特にない」は年齢が上がるにつれ割合が低くなっています。





(2) 困っていることや悩みがあるときの相談相手

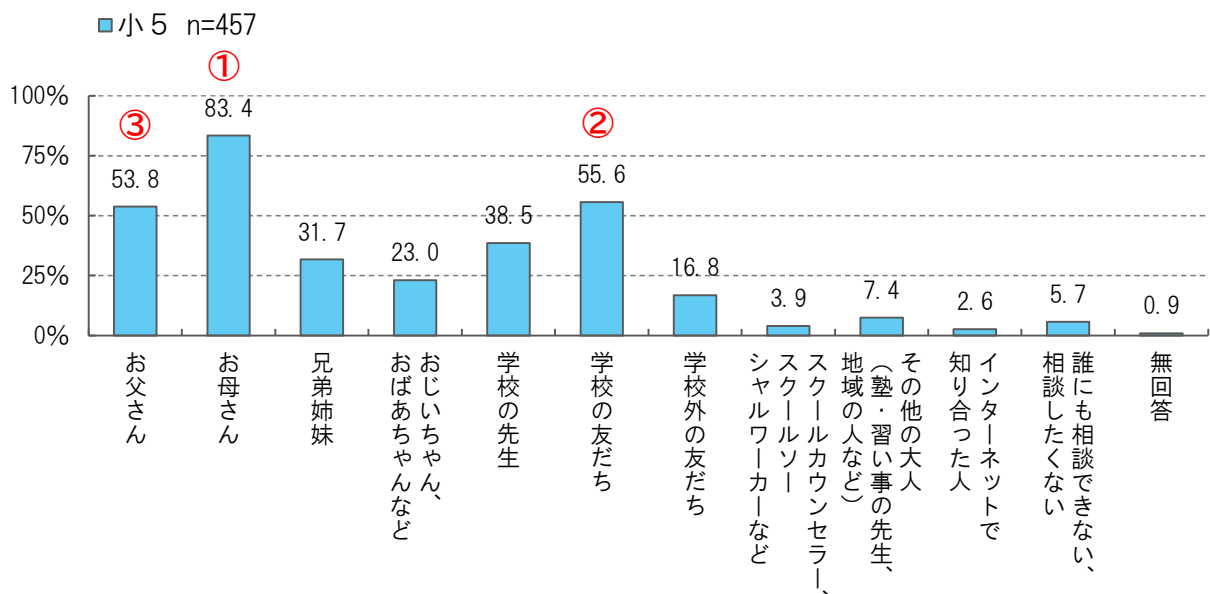
【小5・中2：問15】＜複数回答＞

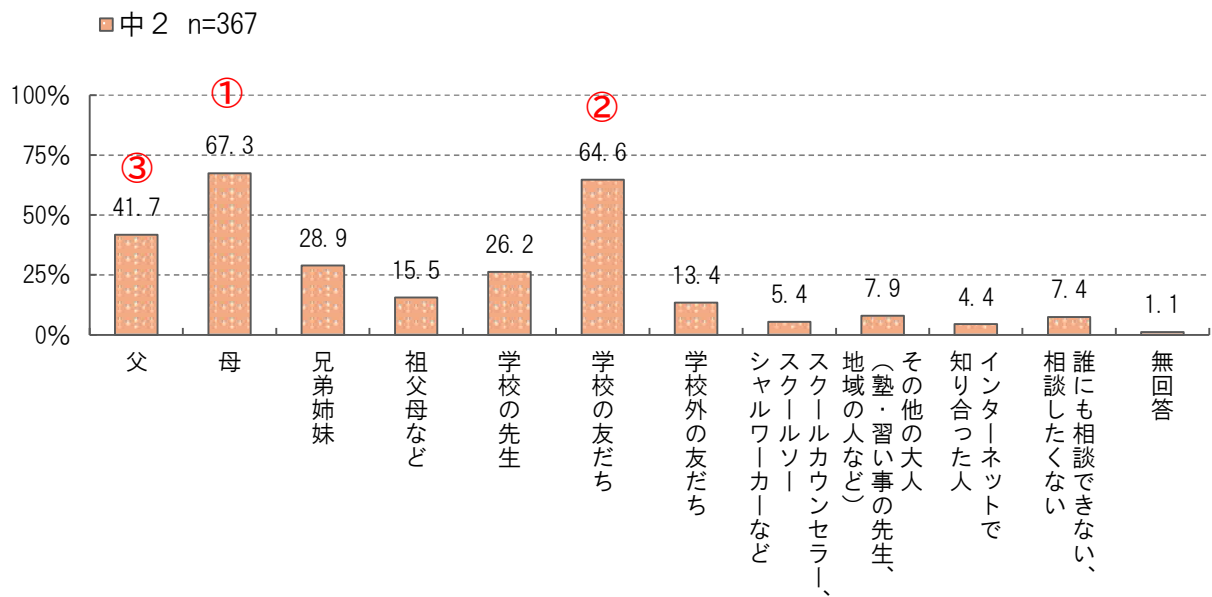
相談相手は、小学5年生、中学2年生ともに「母親」、「学校の友だち」、「父親」が上位となっています。

小学5年生では8割以上が「母親」を相談相手としていますが、中学2年生では「母親」と「学校の友だち」がともに6割台となっています。

また、専門職である「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど」は小学5年生では3.9%、中学2年生では5.4%となっています。

一方、「誰にも相談できない、相談したくない」は1割未満ですが、一定数いる状況です。

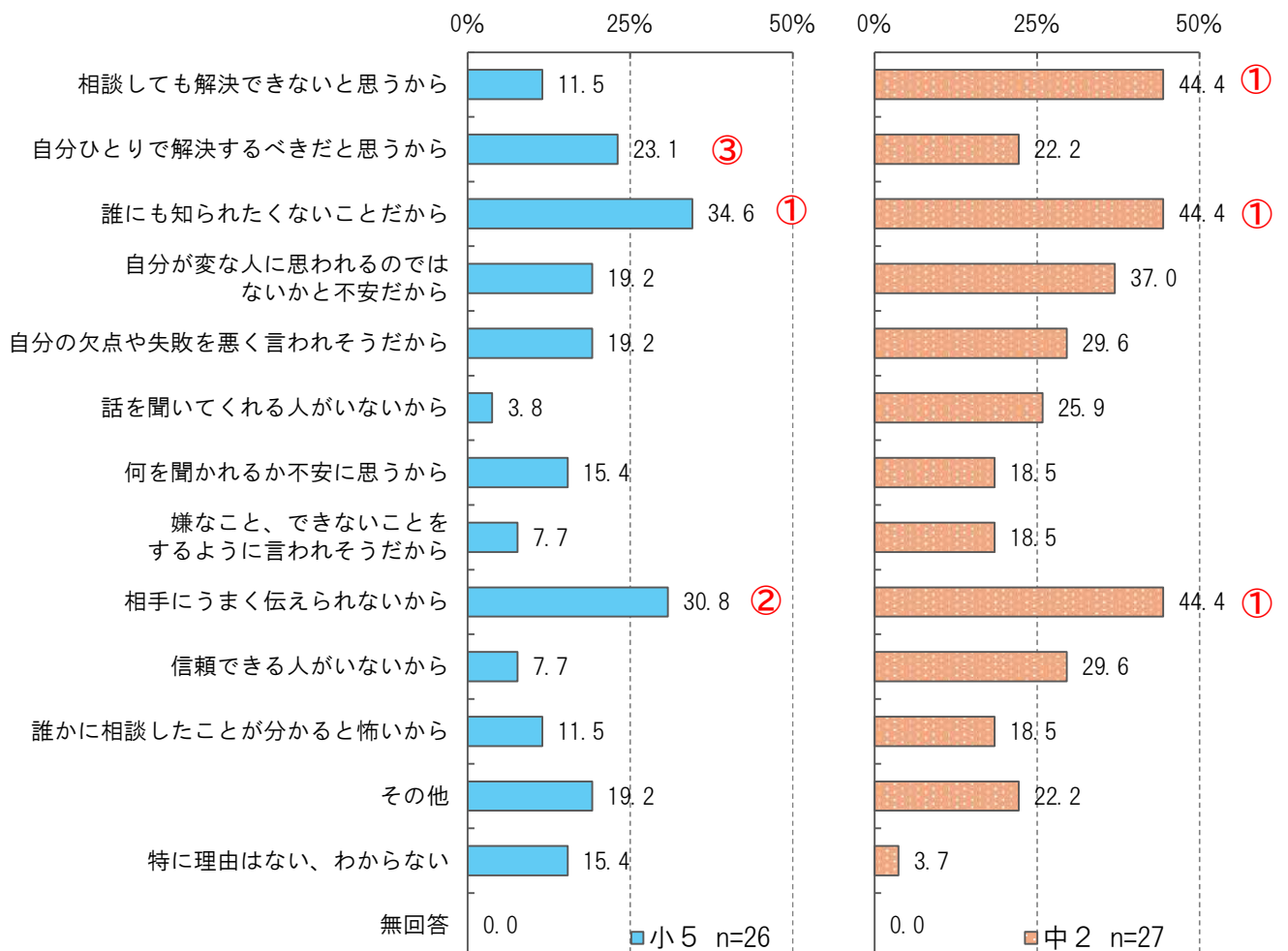




(3) 誰にも相談できない、相談したくない理由

[小5・中2：問 15-2] <複数回答>

誰にも相談できない、相談したくない理由は、「誰にも知られたくないことだから」と「相手にうまく伝えられないから」が小学5年生、中学2年生ともに上位となっています。



【考 察】

困っていることや悩んでいることは、「勉強や進学のこと」、「将来のこと」など自身の未来につながるものの割合が高くなっています。

また、若者の約3割は「経済面のこと」をあげています。

中2の約7割、若者の約8割は何かしらの困りごとや悩みがある状況です。

小5・中2では、相談相手として家族や友人など身近な相手が多くを占め、「学校の先生」は3割前後となっています。

また、「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど」の専門職への相談は1割に満たない状況です。

加えて、「誰にも相談できない、相談したくない」は1割未満ですが、一定数いる状況です。

本市の子ども・若者は、困っていることや悩んでいることを大半が相談できる環境にあるが、専門職への相談も少なく、誰にも相談できないなど支援につながりにくい子ども・若者も一定数いる現状があるため、公的な相談機関や相談の方法をさらに周知・啓発していく必要があります。

3 こどもの権利について

(1) 参加の権利の保障状況

[小5・中2：問 25、若者：問 27] <単数回答>

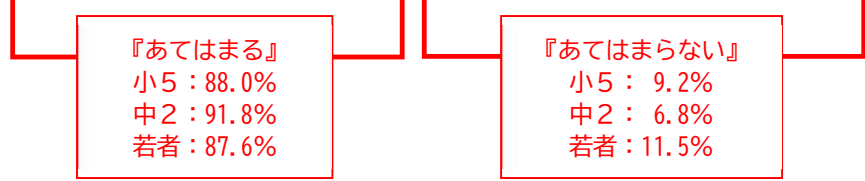
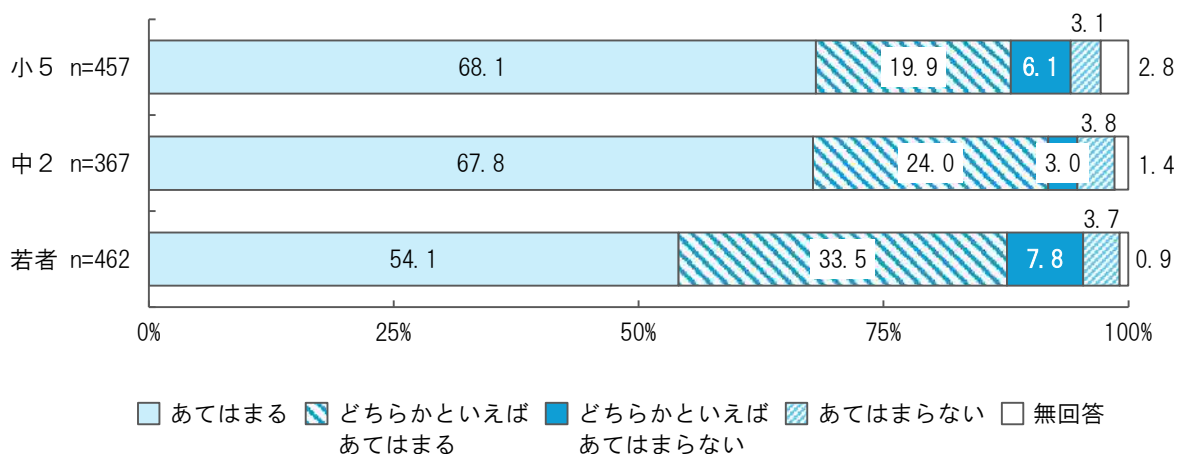
参加の権利が保障されていると思う（『あてはまる』）項目をみると、中学2年生の「家庭への参加の権利」が91.8%と最も高くなっています。

また、小学5年生でも「家庭への参加の権利」が最も高く、若者では「インターネットへの参加の権利」が最も高くなっています。

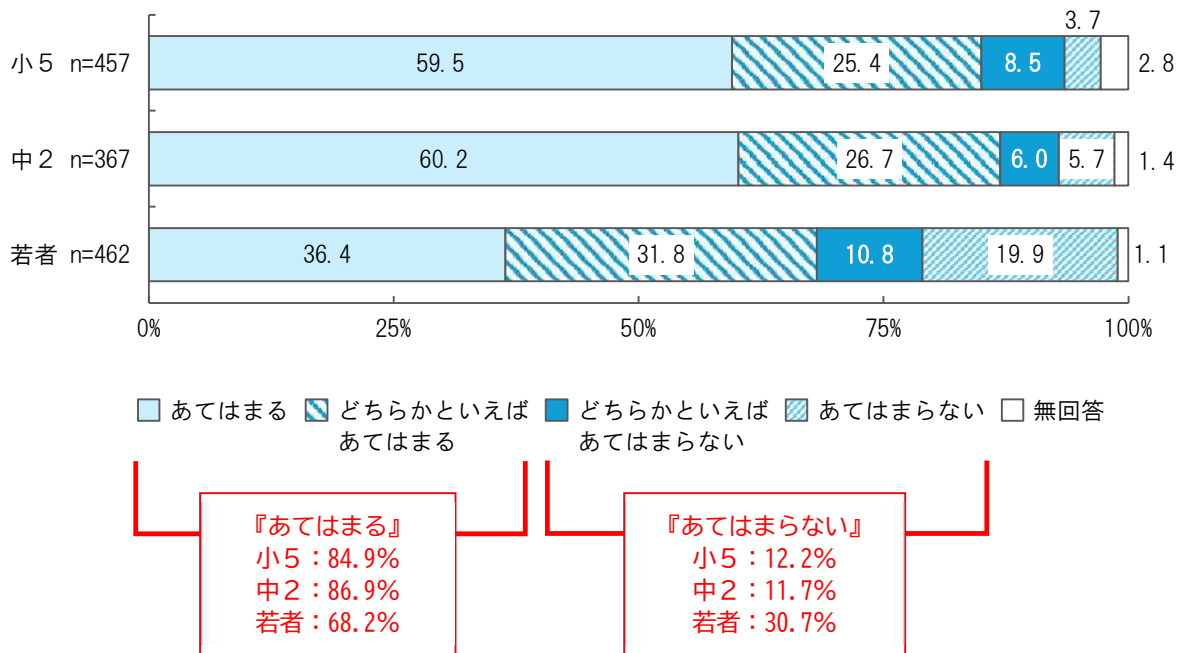
一方、参加の権利が保障されていないと思う（『あてはまらない』）項目をみると、小学5年生の「地域への参加の権利」が39.0%と最も高くなっています。

また、中学2年生でも「地域への参加の権利」が最も高く、若者では「学校への参加の権利」が最も高くなっています。

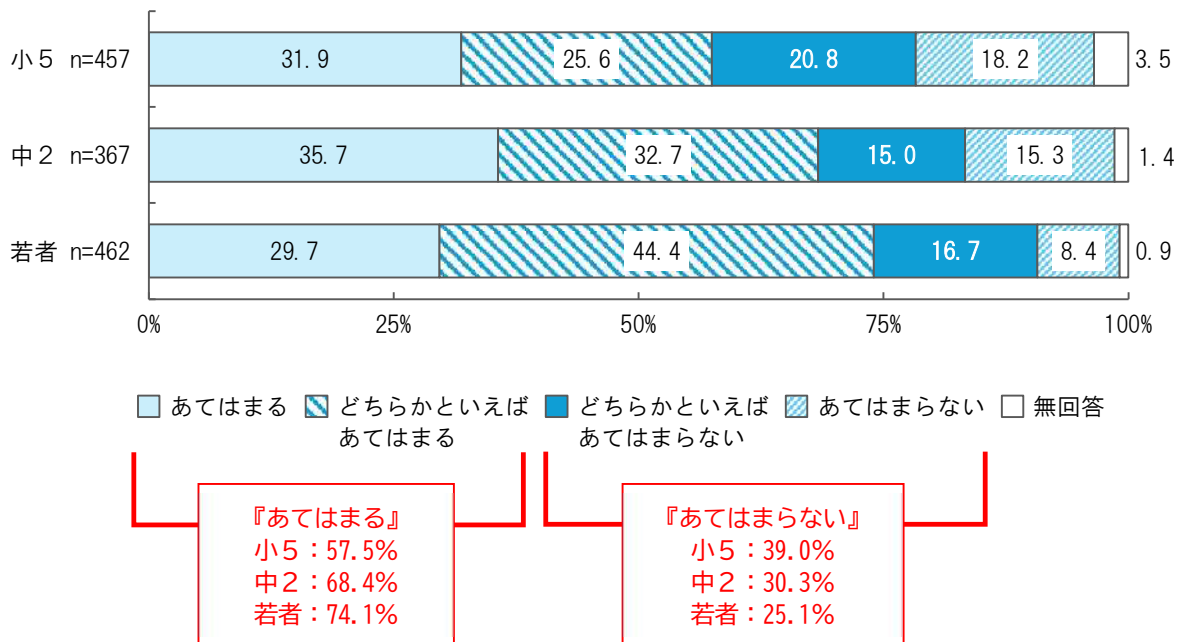
【家庭への参加の権利が保障されている】



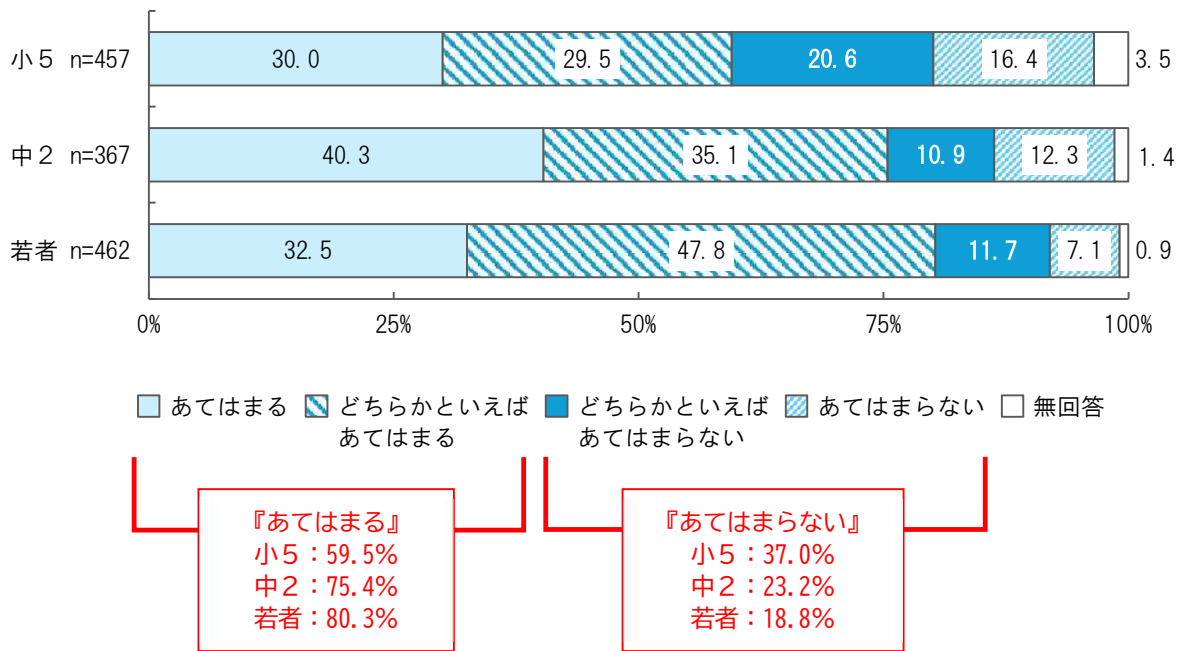
【学校への参加の権利が保障されている】



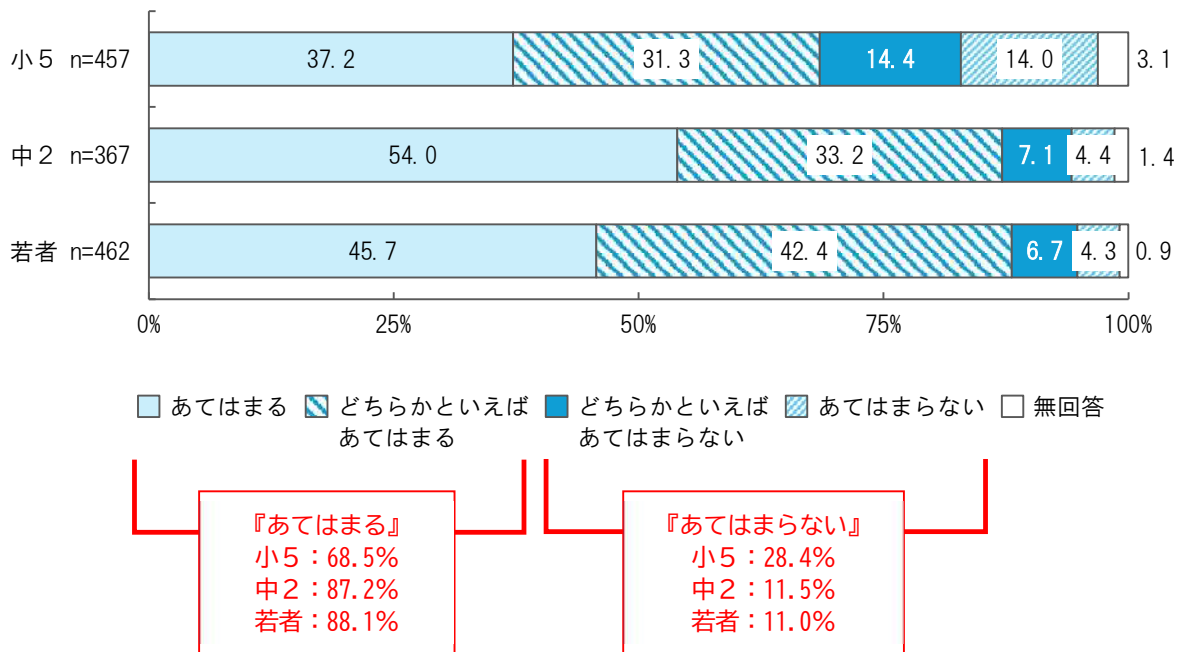
【地域への参加の権利が保障されている】



【社会への参加の権利が保障されている】



【インターネットへの参加の権利が保障されている】



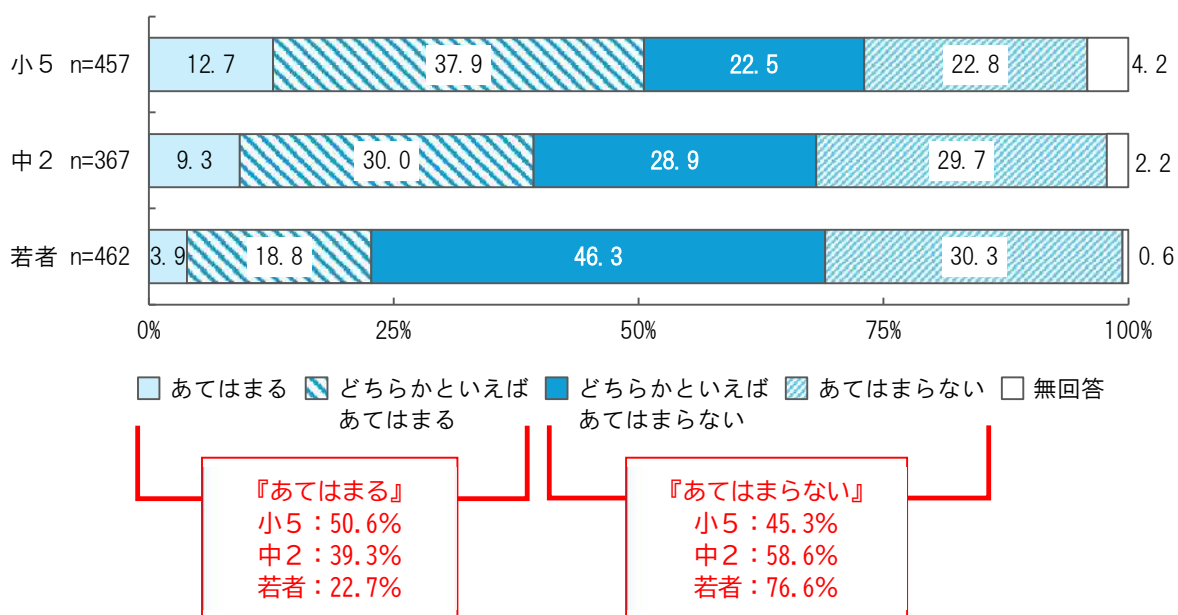
(2) こども・若者政策に関する思い

[小5・中2：問 24④、若者：問 26④] <単数回答>

こども政策に関して自身の意見が聴いてもらえている（『あてはまる』）と感じている小学5年生は約5割、中学2年生は約4割となっています。

また、若者政策に関して自身の意見が聴いてもらえている（『あてはまる』）と感じている若者は2割強となっています。

【こども・若者政策に関して自身の意見が聴いてもらえている】



【考 察】

小5・中2・若者の9割前後は、「家庭への参加の権利が保障されている」と回答しています。また、小5・中2では8割以上が「学校への参加の権利が保障されている」と回答しているのに対し、若者では6割台となっています。

小5・中2と若者の意識の差の要因は、2023年に「こども基本法」が施行されるなど、近年のこどもへの権利教育の推進が推測されます。

なお、「地域への参加の権利」「社会への参加の権利」「インターネットへの参加の権利」は年齢が上がるにつれ、保障されていると回答した割合が高くなっています。

自分の意見が政策に反映されていると思う割合は年齢が上がるにつれ減少しています。特に若者の8割弱は自身の意見が聴いてもらえていないと回答しています。

参加する権利の保障は、こどもが自分に関係のあることに意見を言い、参加することで「自分の意見が社会や周りの大人に影響を与えている」と実感できるプロセスが重要であるため、各場面で、こどもが安心して意見をいうことができる環境の構築が必要です。

特に若者が意見を表明する場を設ける必要性がうかがえます。

4 自己肯定感等について

(1) 自分の気持ちや思いの状況

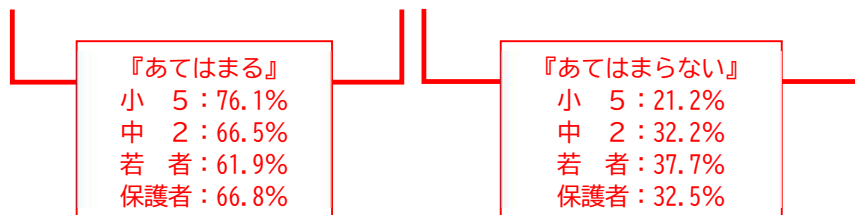
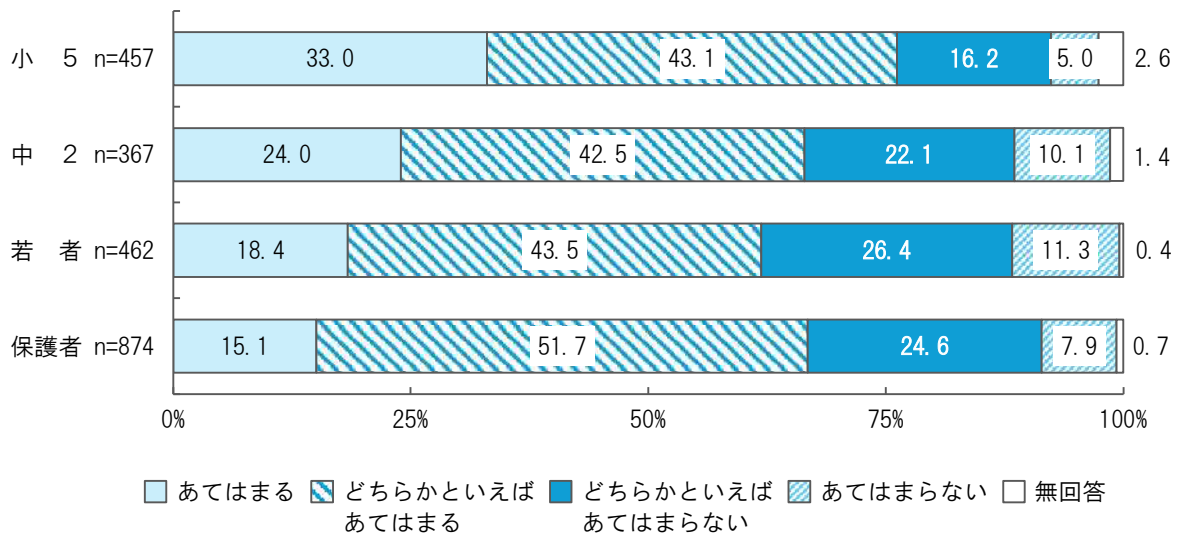
[小5・中2：問 24①②③、若者：問 26①②③、保護者：問 23①②③] <単数回答>

今の自分が好きだ（『あてはまる』）と回答した小学5年生は8割弱、中学2年生、若者、保護者では6割台となっています。

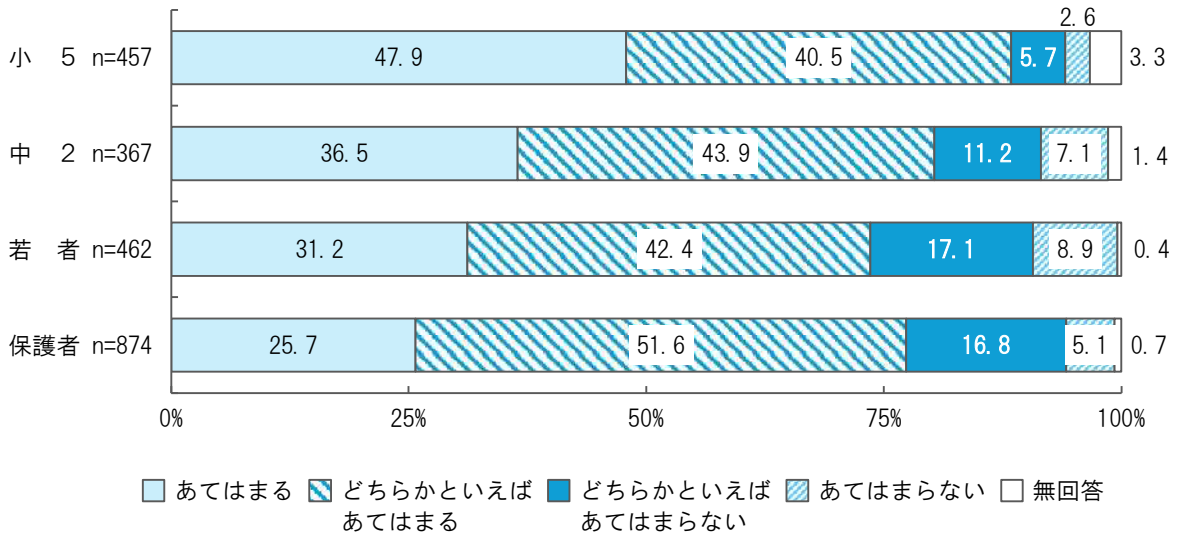
自分には自分らしさというものがあると思う（『あてはまる』）と回答した小学5年生は9割弱、中学2年生は約8割、若者、保護者では7割台となっています。

自分の将来について明るい希望があると思う（『あてはまる』）と回答した小学5年生は約8割、中学2年生、保護者は6割台、若者は5割半ばとなっています。

【今の自分が好きだ】



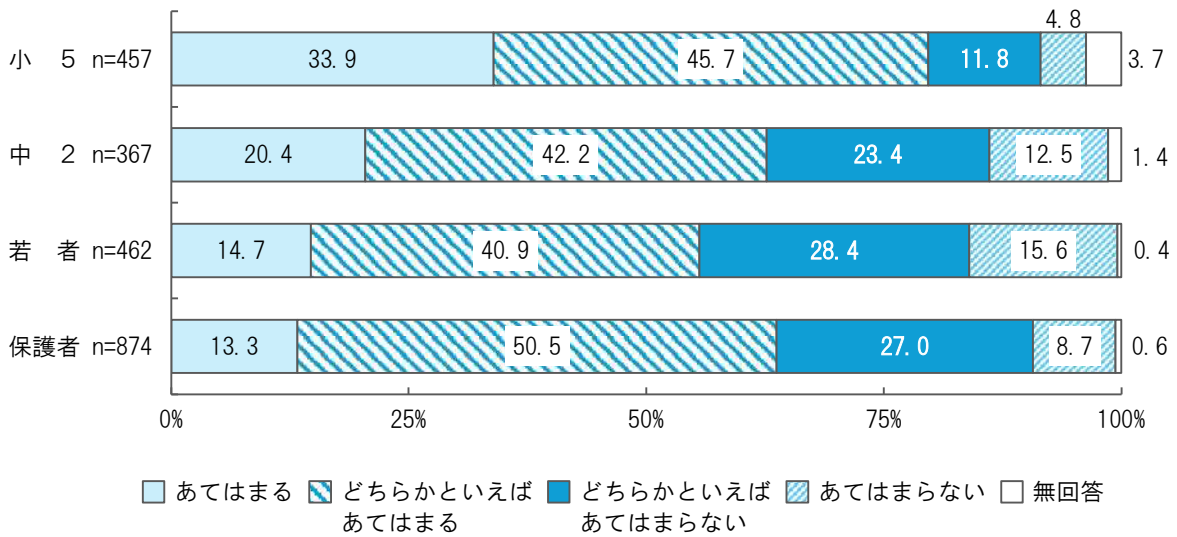
【自分には自分らしさというものがあると思う】



『あてはまる』
 小 5 : 88.4%
 中 2 : 80.4%
 若 者 : 73.6%
 保護者 : 77.3%

『あてはまらない』
 小 5 : 8.3%
 中 2 : 18.3%
 若 者 : 26.0%
 保護者 : 21.9%

【自分の将来について明るい希望があると思う】



『あてはまる』
 小 5 : 79.6%
 中 2 : 62.6%
 若 者 : 55.6%
 保護者 : 63.8%

『あてはまらない』
 小 5 : 16.6%
 中 2 : 35.9%
 若 者 : 44.0%
 保護者 : 35.7%

【考 察】

小5の8割弱は「今の自分が好き」、9割弱が「自分には自分らしさというものがあると思う」と回答しています。これらは、自己肯定感を測る指標とされていることから、自己肯定感が高い子どもが多いことがうかがえます。

一方で、「今の自分が好きだと思わない」（『あてはまらない』）は、小5で約2割、中2で3割強、若者で4割弱います。

また、若者は「自分の将来について明るい希望があると思う」割合が、小5・中2・保護者より低くなっています。

子ども・若者の自己肯定感の醸成のため、小さな成功体験を積み重ねることができるような教育が必要となります。

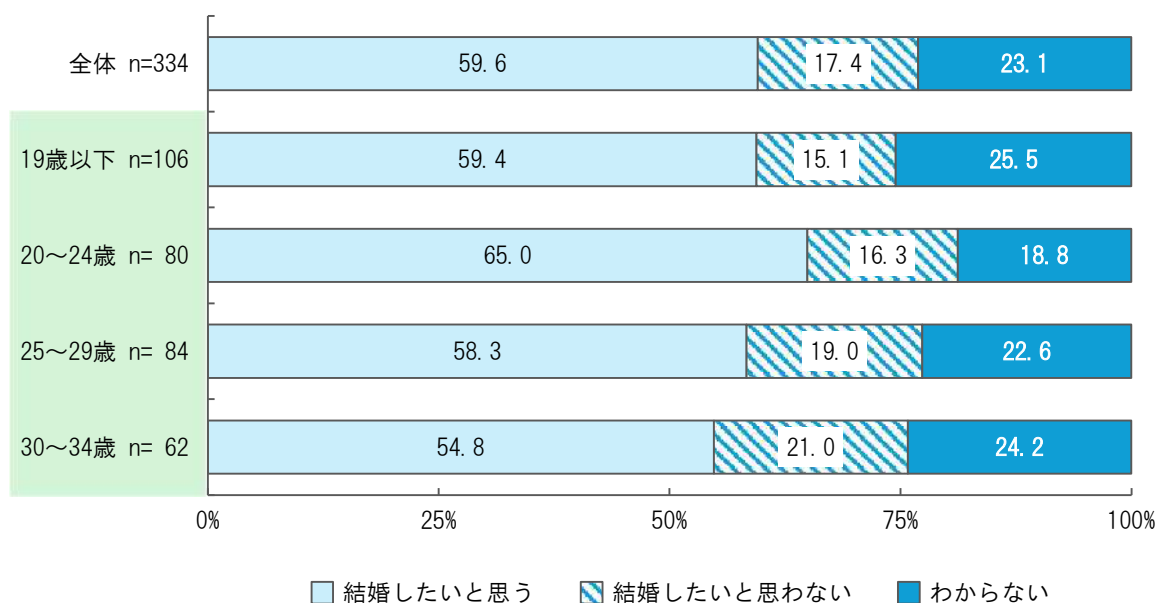
5 若者の将来について

(1) 結婚の意向

[若者：問 21-1] <単数回答>

将来「結婚したいと思う」若者は、全体では約6割、2割弱は「結婚したいと思わない」と回答しています。

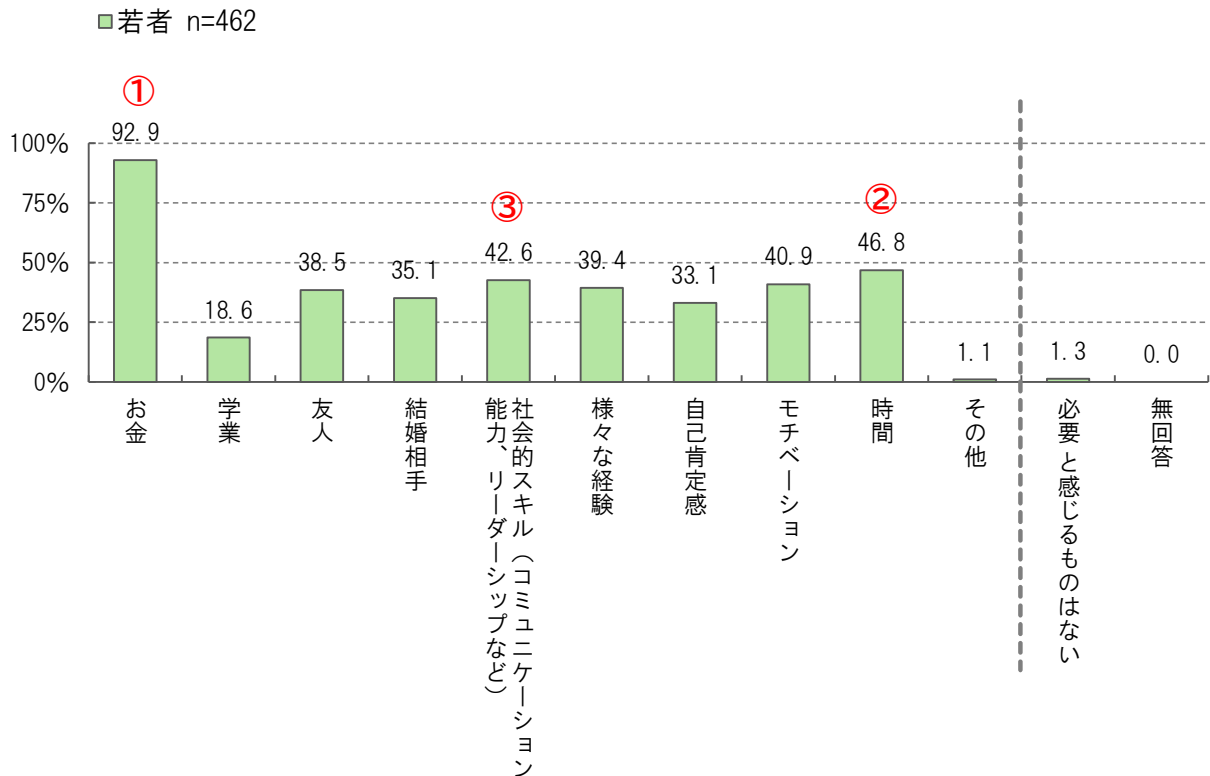
年代別にみると、「結婚したいと思う」は、いずれも5～6割台ですが、20～24歳の65.0%をピークに25～29歳、30～34歳と割合は低くなっています。



(2) ライフプランに必要なこと

[若者：問 20] <複数回答>

若者がライフプランに必要と感じていることは、9割以上が「お金」をあげており、次いで「時間」、「社会的スキル（コミュニケーション能力、リーダーシップなど）」となっています。



【考 察】

将来結婚をしたいと思っている若者は約6割となり、20歳以上は年代が上がるにつれ「結婚したいと思う」割合は低くなっています。

自分の将来についての人生設計（ライフプラン）において、必要と感ずるものは9割以上が「お金」をあげています。

現代の社会情勢を反映し、若者は不確実な未来への不安のため、結婚に踏み切れないことが予測されます。

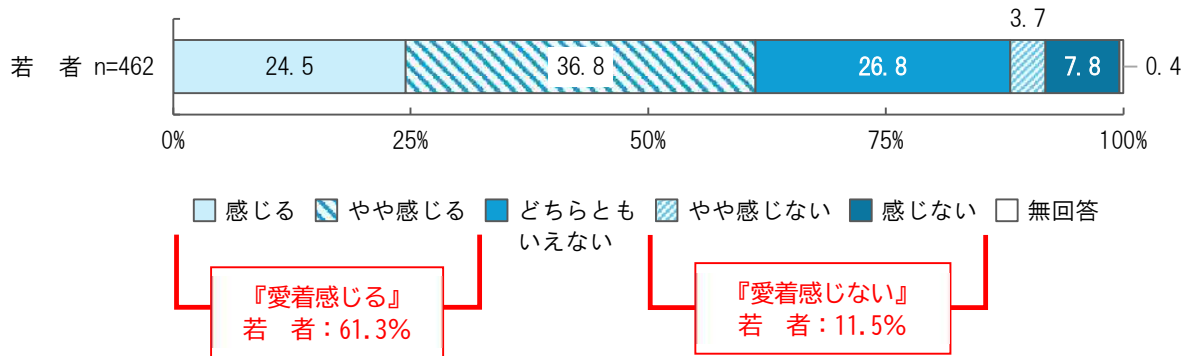
「結婚しても自分のキャリアが保持できる」「生活水準が落ちない」「子どもの教育費に困らない」という確実な見通しを与える施策の必要性がうかがえます。

6 半田市への愛着と生活度の満足度

(1) 半田市への愛着

[若者：問 24] <単数回答>

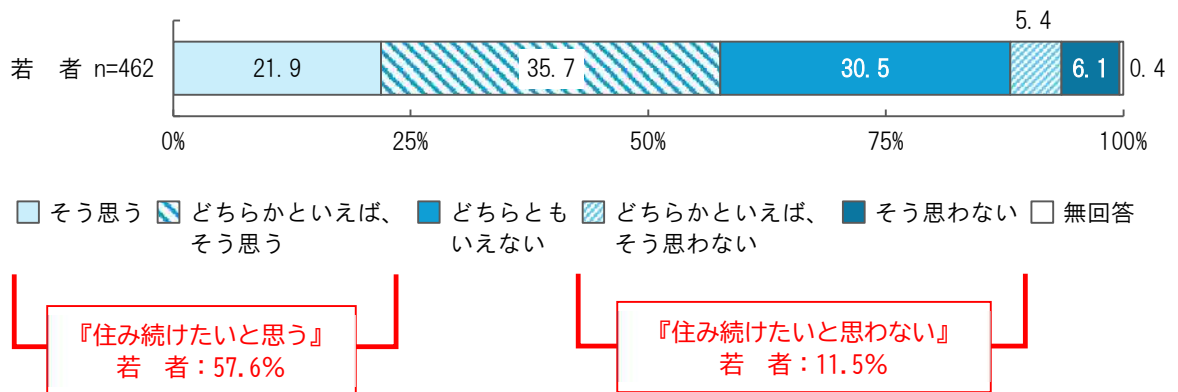
半田市に『愛着を感じている』若者は約6割、『愛着を感じていない』を大きく上回っています。



(2) 半田市への定住意向

[若者：問 25] <単数回答>

半田市に『住み続けたいと思う』若者は6割弱、『住み続けたいと思わない』は1割強となっています。

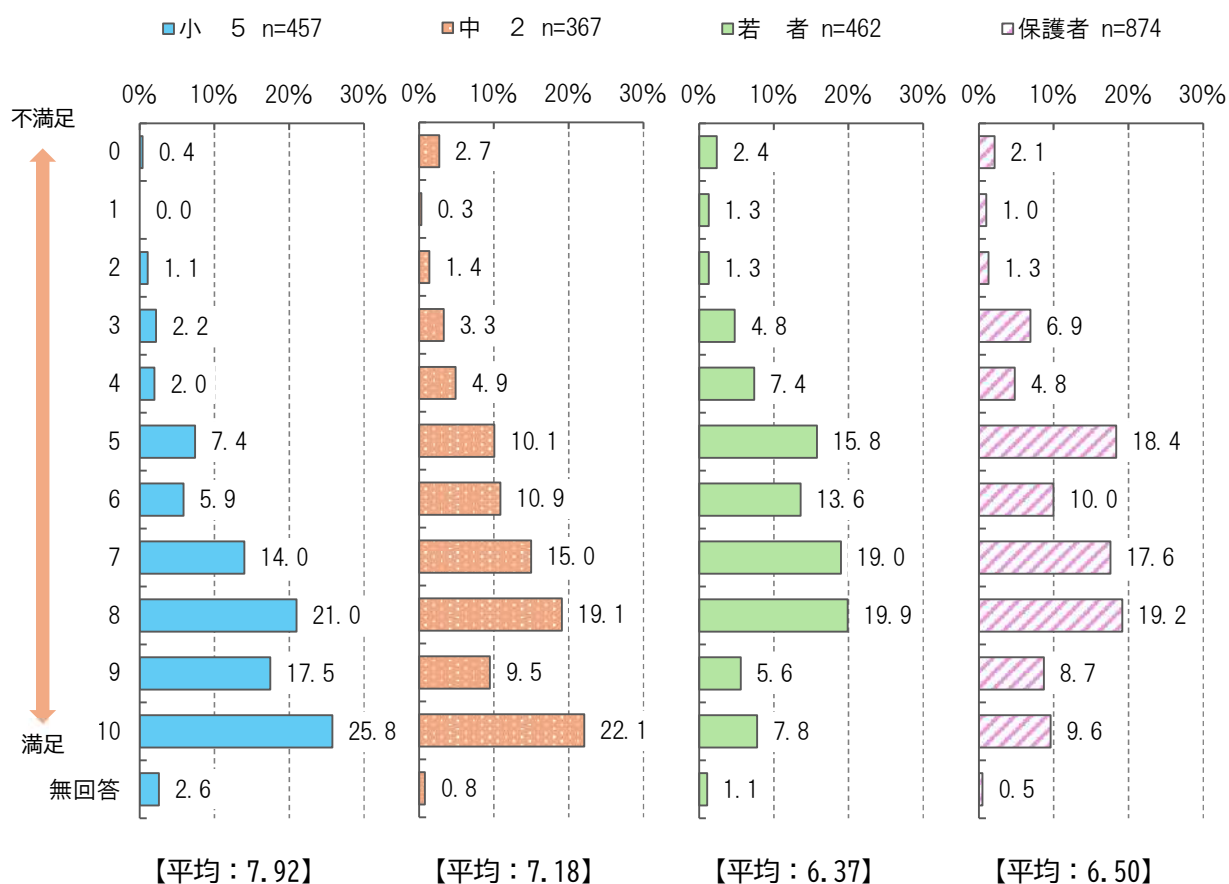


(3) 最近の生活の満足度

[小5・中2：問26、若者：問28、保護者：問24] <単数回答>

最近の生活の満足度をみると、小学5年生・中学2年生では「10」（十分満足）が最も高く、若者・保護者では「8」が最も高くなっています。

また、平均点は小学5年生が7.92と最も高く、若者が6.37と最も低くなっています。



【考 察】

若者の約6割は半田市に愛着があり、住み続けたいと思っています。
一方、半田市に愛着がなく、住み続けたいと思わない若者は1割強となっています。
また、生活の満足度の平均値は、小5で最も高く、若者が最も低くなっています。

若者の定住・定着促進のため、求められる支援の的確な把握が重要となります。